



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2021-47

(2021. 11. 25)

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

グローリー株式会社の英国 OneBanks 社への出資

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 貨幣処理機メーカーのグローリー株式会社は、2021年8月、複数金融機関のシェアードサービスを手掛ける英国スタートアップ企業の OneBanks 社に出資した。
- OneBanks 社は、FinTech・DXを活用し、顧客の現金の入出金などを支援する企業である。OneBanks 社の店舗では現金を取り扱えるうえ、対面でのサポート実施などが強みとされる。
- OneBanks 社は2021年10月現在3店舗を出店済みで、順次拡大する計画を有する。金融機関は店舗撤退後も低コストで地域の顧客利便性を維持できるため、OneBanks 社への期待は大きい。
- わが国でも金融機関を取り巻く経営環境が厳しさを増すなか、Fintech・DXを活用し同様のサービスを提供する事業者が誕生する可能性はあろう。

- (注) 1. 本稿はグローリー株式会社への取材に基づき作成している。
2. 日本と英国では金融諸制度が異なる点を踏まえて参考にして頂きたい。

1. OneBanks 社への出資

貨幣処理機メーカーのグローリー株式会社は、2021年8月16日、英国で複数金融機関の金融サービスを提供可能な共同利用サービス（以下「シェアードサービス」という。）を手掛ける Unified Financial Limited（「OneBanks」として事業展開するため、以下「OneBanks 社」という。）の株式を取得（出資）した。

同社は2021年にスタートした中期経営計画において、コア事業と新領域事業のクロス成長

を掲げる。こうしたなか同社は、新事業テーマの一つとして銀行支店サービスのシェアードサービスを検討しているなかで OneBanks 社を見つけ、両社にメリットがあると確信したことから、OneBanks 社に出資した。

出資の目的は、①シェアードサービスに関する技術やノウハウの取得、②新たな商品・サービスの開発および提供、③OneBanks 社に対する同社製品の販売である。

(図表1) OneBanks 社の概要 (2021年7月現在)

企業名	Unified Financial Limited (OneBanks として事業展開)
本社所在地	8 Botanic Cresecent Glasgow, Scotland, G20 8QQ
CEO	Duncan Cockburn
設立年月日	2019年11月29日
従業員数	28人
事業概要	流通店舗における「シェアードサービス」事業
HP	https://onebanks.co.uk/

(備考) 図表1・2ともにグローリー資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

なお今回の出資に合わせて同社より取締役1人をOneBanks社に派遣済みである。

2. 英国金融機関を取り巻く状況

近年、英国では金融機関の店舗閉鎖などが急速に進んでおり、一部の地域では十分な金融サービスを受けられない「金融過疎」が社会問題化しつつあった。特にネットの苦手な高齢者などの不満は強いようである。

そこで英国政府は、店舗閉鎖などを行う金融機関に対し、顧客利便性の低下を抑えるための代替サービスを検討するよう指示した。具体的には、FCA（金融行動監視機構）では、金融機関が店舗を閉鎖する際、①金融機関が閉鎖予定の店舗について、12週間以上前に顧客に通知する、②店舗が閉鎖された場合の代替手段について顧客に説明することを求めている。

金融機関は、店舗閉鎖後の代替サービスの手当を検討するなか、低コストで金融サービスを提供可能なシェアードサービスの利用に注目が集まるようになった。

3. OneBanks社の概要

OneBanks社は、2019年11月29日に設立されたスタートアップ企業である。FinTech・DXを活用したシェアードサービスを提供する。OneBanks社は、独自のソフトウェア開発に優れ、英国の主要銀行とオープンバンキングAPIでの接続が完了している。

シェアードサービスの内容は、①現金の預入れ、②現金の引出し、③請求書払いの支払い、④オンラインバンキングのセットアップである（図表2）。店頭で現金の入出金が可能なうえ、インターネットバンキングの操作を苦手とする高齢者などへのサポートを対面で行えることが強みとされる。

また金融機関は、OneBanks社への業務委託を通じて、単独で支店を運営する場合の1割程度のコスト（推定）で金融サービスを提供可能な点も強みと言えよう。なお競合として英国ポス

トバンクも同様のサービスを展開するが、曜日ごとに対応する銀行が異なる、土日対応していないなどの課題を有する。

（図表2）シェアードサービスの内容

①現金の預入れ

②現金の引出し

- ATMでスマートフォンに表示されたQRコードをスキャンするだけで現金の引出しが可能

③請求書払いの支払い

- 将来的には、銀行口座を持たない顧客の請求書の支払いに対応

④オンラインバンキングのセットアップサポート

- 他銀行のオンラインバンキングサービスのセットアップをサポート

OneBanks社は、コープ・フード（スーパーマーケット）の一角にインスタブランチ的に出店する。現在は、Kilwinning、Denny、Lochgellyに3店舗を出店済みで、2022年末までに15店舗に拡大する計画もある。

OneBanks社の社員は、金融商品のセールスを行わず、来店客がオンラインバンキングを操作する際のサポートなどを行うに留める。

4. わが国への可能性

英国とわが国では金融諸制度や取り巻く環境が異なるものの、OneBanks社の新しい試みは今後のわが国にも参考になる点が多い。

わが国でも人口減少地域を中心に金融機関の撤退が相次いでおり、こうした地域では金融インフラの維持策が課題とされる。

こうしたなか今後はOneBanks社のようなFinTech・DX企業がわが国にも登場する可能性は十分あり得るので、引き続き同社の動向をウォッチしておく必要があると考える。

以上

（参考情報）

- ・グローリー株式会社ニュースリリース（2021年8月18日）